

産地崩壊の危機を回避するためのかんしょ病害防除技術の開発

1 代表機関・研究統括者

国立研究開発法人 農研機構九州沖縄農業研究センター 小林 有紀

2 研究期間：2019～2021 年度（3 年間）

3 研究目的

鹿児島県、宮崎県及び沖縄県のかんしょ産地で多発した立枯・塊根腐敗症状に対する効果的な防除対策を提示するため、病害の発生実態を明らかにし、新たな防除技術を開発する。

4 研究内容及び実施体制

① 基礎技術の開発

基腐(もとぐされ)病(仮称)及び複数の類似病害を識別できる遺伝子診断法を開発し、基腐病防除及び抵抗性育種に利用可能なかんしょ品種・系統を選抜する。
(農研機構九州沖縄農業研究センター)

② 原料用かんしょにおける防除技術の開発

鹿児島県内の原料用かんしょ産地を中心に基腐病の発生実態を解明し、薬剤や作物残渣分解促進資材を用いた基腐病防除技術を確立する。
(鹿児島県農業開発総合センター、鹿児島県経済農業協同組合連合会)

③ 青果用かんしょにおける防除技術の開発

宮崎県内の青果用かんしょ産地を中心に基腐病の発生実態を解明し、薬剤や土壌還元消毒を用いた基腐病防除技術を確立する。
(宮崎県総合農業試験場、宮崎県農政水産部農業経営支援課、農研機構野菜花き研究部門)

④ 疫学的解析と診断・防除マニュアルの作成

病害発生要因や発生確率を予測し、予測結果に応じた効果的な防除対策を提示できるツールを開発する。また、基腐病の遺伝子診断法や当該ツールの実践方法を取りまとめた診断・防除マニュアルを作成する。
(農研機構九州沖縄農業研究センター、鹿児島県農業開発総合センター、鹿児島県経済農業協同組合連合会、宮崎県総合農業試験場、宮崎県農政水産部農業経営支援課、農研機構野菜花き研究部門、農研機構中央農業研究センター)

5 達成目標

遺伝子診断による疫学調査や発生要因予測の結果等を踏まえた効果的な防除対策の実践を可能とする基腐病診断・防除マニュアルの作成。

6 期待される効果・貢献

成果は鹿児島県、宮崎県、沖縄県の立枯・塊根腐敗症状発生地域において活用され、原料用、青果用かんしょの安定生産に貢献する。さらに、未発生地域における基腐病の発生防止にも貢献できる。

研究目標

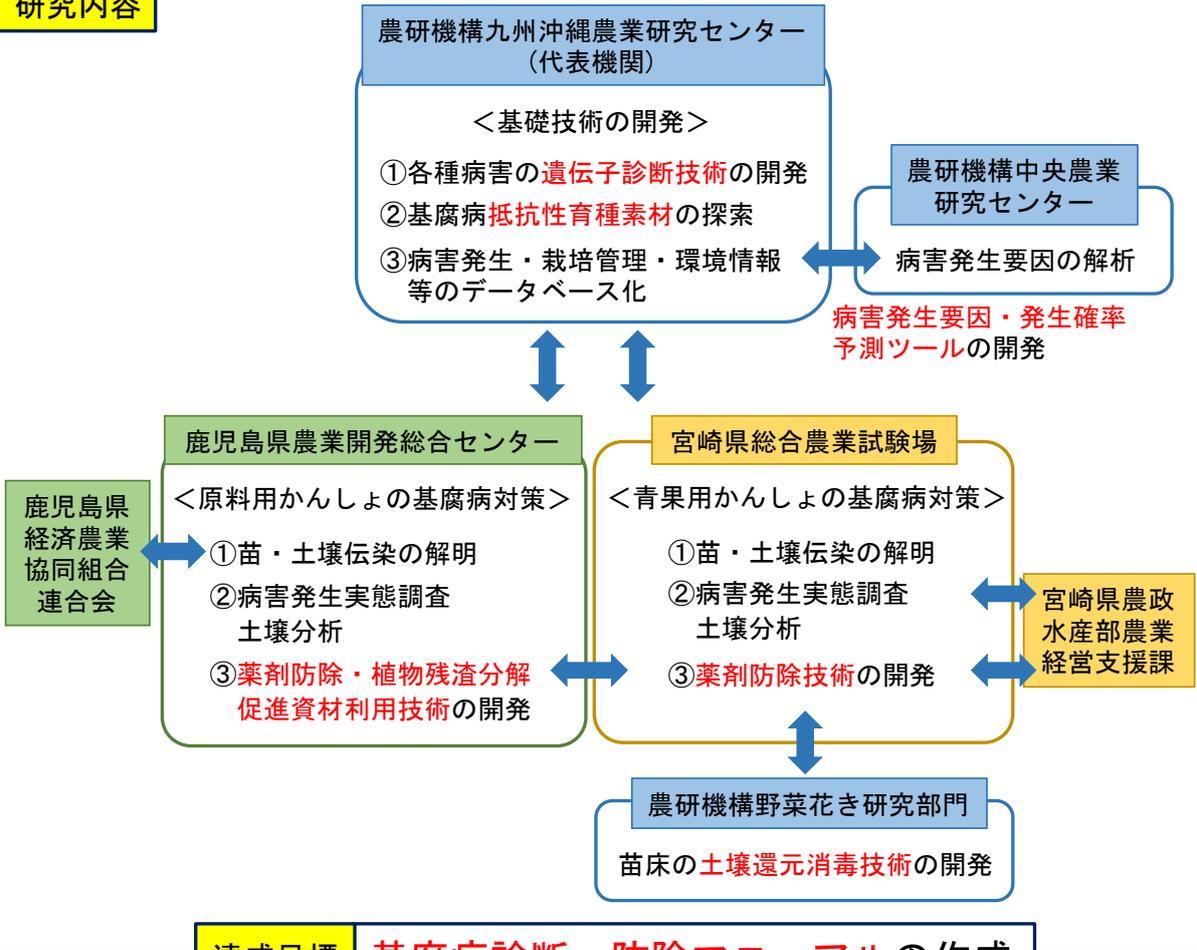
鹿児島県、宮崎県、沖縄県のかんしょ産地で株立枯や塊根腐敗症状が多発し、深刻な収量低下が問題化。



基腐病(新病害)? 乾腐病? つる割病? 茎根腐細菌病?

効果的な防除対策を提示するため、病害の発生実態を明らかにし、新たな防除技術を開発する。

研究内容



期待される効果・貢献

生産量の安定



農家の経営の安定

加工食品の製造



地域経済の活性化



国民の豊かな食生活の実現